

# 26P-am07

ハンカチノキの成分 (第一報)

○木村 優里子<sup>1</sup>, 青山 弘枝<sup>1</sup>, 下津 祐樹<sup>1</sup>, 黒田 照夫<sup>2</sup>, 坂上 宏<sup>3</sup>, 波多野 力<sup>1</sup> (<sup>1</sup>岡山大学院医歯薬・天然医薬品開発学, <sup>2</sup>岡山大学院医歯薬・創薬基盤センター, <sup>3</sup>明海大歯・薬理学)

【目的】ハンカチノキ *Davidia involucrata* は中国西部山岳地帯原産のミズキ科の落葉低木であり、タンニンを多く含んでいることが知られている。しかし、本植物の希少性のために成分研究の報告は限られている。一方タンニンについては近年、薬剤耐性菌の出現ならびに易感染者への感染の拡大が問題となっているメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) やバンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) などに対して抗菌活性を示すことが報告されている。そこで本研究ではこれら薬剤耐性菌に対する抗菌作用資源探索の観点からタンニン成分の検討を行うこととした。

【方法】ハンカチノキの葉の 70%アセトン抽出物を Sepabeads、Toyopearl HW-40C、ODS gel を用いたカラムクロマトグラフィーによって分画、精製を行った。単離した化合物は NMR、MS をはじめとする各種スペクトルによって同定した。

【結果及び考察】ハンカチノキから 3 種のタンニン Davidiin、Granatin A、3-O-Galloylgranatin A (= Helioscopinin A) を単離同定した。これらの中で 3-O-Galloylgranatin A については本植物からの単離は初めてである。これらの化合物について抗菌活性の検討を現在行っている。また、それらの抗腫瘍作用についても報告する。

